

はしど



平成28年 9月 1日
学校便り 第5号
練馬区立橋戸小学校
校長 河崎 晃二

<http://www.hashido-e.nerima-tky.ed.jp/>

☆学校教育目標 考える子・思いやりのある子・たくましい子

感動のリオデジャネイロ・オリンピック

校長 河崎 晃二

夏休みが終わりました。子どもたちに大きな事故等なく休み明けが迎えられたことを本当に有り難く思います。保護者の皆様や地域の皆様のご指導や見守りに感謝申し上げます。

さて今年の夏は、リオデジャネイロオリンピックが開催されたことで、ひととき印象深い夏となりました。日本の選手達の「史上初や〇〇年ぶりのメダル」というようなめざましい活躍が連日報道され、メダル数も合計41個で史上最高の獲得数となりました。それまでに積み重ねた自信や誇りを胸に秘めた死闘の末に獲得したメダルとなりました。全力を尽くす底力は、近年まれに見る光景でした。「残り数秒」・「あと1ポイント」を取るための極限状態での精神力は、幾多の厳しい練習を重ね自己を鍛え、それぞれの夢を追ってきたからこそ成し得た賜物でしょう。トップアスリートたちが夢を果たせた歓喜の涙と笑顔に、私達も一緒になって何度となく熱く燃え大きな感動を味わうことができました。

それぞれのご家庭で話題になったのはどの選手のどんな姿や言葉だったでしょうか。

また、心に残るのはメダリストたちのことばかりではありません。世界のトップレベルとの格差を見せつけられながらも、最高の自分を発揮することを目指してがんばった選手。メダルを期待されながら力を発揮しきれなかった選手。そういう選手たちの言葉や表情にも心打たれました。

目標をもってひたむきに努力を続ける力の尊さ。そういう努力ができるのは、自分を支えてくださる人がいるからだということに気づき、感謝できる人のすばらしさ。子供たちはそれをオリンピックから学んでくれたことでしょう。

学校では、オリンピック・パラリンピック教育を推進していきます。「精神」「スポーツ」「文化」「環境」の4つのテーマを、様々な教科や領域の中で学習し、理解を深めていきます。また、4つのアクション「知る」「観る」「体験する」「支える」を通して各テーマに迫り、体力の向上や健康の保持増進だけでなく、国際感覚なども養います。

4年後の2020年には、東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。自分の住んでいる都市で世界的なスポーツの祭典を迎えられる経験は、この先もう一度あるかわかりません。4年後の子供たちには、自分なりのオリンピック・パラリンピックとのかかわり方を考え、実践してほしいと思います。その日の自分を今から思い描くだけで、きっと無限大の楽しみが心の中に生まれることでしょう。